

## 指標及び目標達成状況確認表

基本方針	番号	環境指標	各基準年度値	目標値 (2023年度)	担当課	2020年度	2021年度	担当課の評価・今後の見通し
1. 温室効果ガス排出量の削減・エネルギー消費量の削減を進めます (西東京市地球温暖化対策実行計画・区域施策編)	1-1	温室効果ガス排出量(国準拠)	598千t-CO <sub>2</sub> (2013年度)	443千t-CO <sub>2</sub> (2030年度)	環境保全課	546千t-CO <sub>2</sub> (2018年度)	532千t-CO <sub>2</sub> (2019年度)	直近2019年度の温室効果ガス排出量は、前年度比2.6%減、基準年度比11.0%減となっている。前年度からの減少要因として、省エネの推進及び電気供給に伴う排出係数の減少の影響がある。
	1-2	温室効果ガス排出量(都準拠)	514千t-CO <sub>2</sub> (2000年度)	360千t-CO <sub>2</sub> (2030年度)	環境保全課	546千t-CO <sub>2</sub> (2018年度)	532千t-CO <sub>2</sub> (2019年度)	直近2019年度の温室効果ガス排出量は、前年度比2.6%減、基準年度比3.5%増となっている。前年度からの減少要因として、省エネの推進及び電気供給に伴う排出係数の減少の影響がある。
	1-3	エネルギー消費量(都準拠)	6,979TJ(2000年度)	4,327TJ(2030年度)	環境保全課	5,382TJ (2018年度)	5,361TJ (2019年度)	直近のエネルギー消費量は、前年度比0.4%減。基準年度比23.2%減となっており、減少傾向にある。これは東日本大震災以降の省エネ意識の向上と省エネ機器の普及が考えられる。
2. 自然環境、歴史的及び文化的環境資源の保全・創出・活用を進めます	2-1	公園・緑地の面積	250,967㎡(2017年度)	255,132㎡(2023年度)	みどり公園課	257,853㎡	257,853㎡	令和3年度は、閉園及び設置公園等が無いため、公園・緑地面積に増減無し。
	2-2	公園ボランティア数	740人(2017年度)	890人(2023年度)	みどり公園課	845人	926人	公園ボランティアは、市内の公園・緑地にて、花植え、除草、清掃等の活動を実施しています。
	2-3	郷土資料室の来館者数	2,472人(2017年度)	3,000人(2023年度)	社会教育課	2,044人	2,236人	郷土資料室は、市内の郷土資料(考古資料・歴史資料・民具・民俗資料)を収集・保管・保存・展示するための施設である。旧石器時代の石器、縄文時代の土器、鎌倉・室町時代の板碑、江戸時代の高札、垂山笠や、元市内在勤者が制作した歴史ジオラマ12景などの郷土資料を5つの展示室で公開している。常設展の他、夏休みの時期に合わせたワークショップや、企画展1回を実施した。また、学校教育や生涯学習と連携し、団体見学などを受け入れた。 ※5月は休室  今後も新型コロナウイルス感染症による休室の可能性はあり、期間によっては年間来室人数の減少が予想される。
3. ごみの削減、資源の有効利用を進めます	3-1	家庭ごみ原単位	360g/人・日(2017年度)	347g/人・日(2023年度)	ごみ減量推進課	381g/人・日	369g/人・日	市民への周知・啓発を行っており、前年度と比較して減少しているが、目標を達成するのは難しい見通しである。
	3-2	ごみ排出量	33,453t/年(2017年度)	31,053t/年(2023年度)	ごみ減量推進課	34,877t/年	34,121t/年	人口の増加及びコロナ禍でごみの排出量が増加していると考えられ、目標を達成するのは相当に難しい見通しである。
	3-3	資源化率	33.2%(2017年度)	37.1%(2023年度)	ごみ減量推進課	32.6%	32.5%	現状、資源化を進めるため、分別を細分化しているが、資源化率を上げるには、より新たな資源化策を実施しなければ、目標達成は難しい見通しである。
4. 安全・安心で快適な生活環境の確保を進めます	4-1	大気環境基準の達成状況	二酸化窒素…3/3(2017年度) 浮遊粒子状物質…3/3(2017年度) 光化学オキシダント…0/1(2017年度) (達成地点/測定地点)	二酸化窒素…3/3(2023年度) 浮遊粒子状物質…3/3(2023年度) 光化学オキシダント…1/1(2023年度) (達成地点/測定地点)	環境保全課	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…0/1 (達成地点/測定地点)	二酸化窒素…3/3 浮遊粒子状物質…3/3 光化学オキシダント…0/1 (達成地点/測定地点)	【二酸化窒素】年平均濃度は一般局、自排局ともに引き続き低下傾向を示している。一般局では2014年度以降、すべての測定局で環境基準を達成し、自排局でも2004年度に47%であった達成率が2010年度以降は90%以上で推移し、2018年度以降は100%となった。市では自動車排出ガス対策、法令の規制対象外である小規模燃焼機器の排ガス対策等に引き続き取り組んでいくため、継続してすべての測定局で基準が達成できる見通しである。 【浮遊粒子状物質】一般局、自排局ともに引き続き低下傾向を示している。自排局の低減が進み、一般局との濃度差が少ない状況が続いている。一般局、自排局とも5年連続すべての測定局で環境基準を達成した。2004年度以降は気象的な要因を除き、概ね環境基準を達成しており改善が大幅に進んでいる。市では、工場、廃棄物焼却炉などの固定発生源対策に引き続き取り組んでいくため、継続してすべての測定局で基準が達成できる見通しである。 【光化学オキシダント】年度による変動はあるものの、横ばいの状況が続いている。夏季の光化学スモッグの発令日数は、学校情報9日・注意報3日であった。光化学スモッグによる被害の届け出はなかった。また、0.12ppm以上の高濃度となった時間数は、増減はあるものの、概ね2000年度頃からの減少傾向は変わらず、低下する傾向にある。
	4-2	河川の水質環境基準の達成状況	BOD…0.8(mg/L)(2017年度) (石神井川溜淵橋)	環境基準以下を維持(2023年度) (BOD…3mg/L以下)	環境保全課	BOD…0.9(mg/L) (石神井川溜淵橋)	BOD…0.7(mg/L) (石神井川溜淵橋)	【生活環境の保全に関する環境基準】 8月及び9月に大腸菌群数が超過した。 【人の健康の保護に関する環境基準】 全ての地点で環境基準を満たしている 今後も河川の水質保全に市民や事業者とともに積極的に取り組んでいく。

基本方針	番号	環境指標	各基準年度値	目標値 (2023年度)	担当課	2020年度	2021年度	担当課の評価・今後の見通し
	4-3	自動車騒音の環境基準の達成状況	昼間…98% (2017年度) 夜間…96% (2017年度)	昼間…100% (2023年度) 夜間…100% (2023年度)	環境保全課	昼間…95.2% (2020年度) 夜間…84.8% (2020年度)	【環境基準】 昼間…100% (2021年度) 夜間…81.3% (2021年度)	(道路交通騒音振動) 【要請限度】 騒音及び振動の要請限度は、全ての地点で超過しなかった。 【環境基準】 調査地点のうち、騒音の環境基準を超過したのは東京所沢線(青梅街道)、東京所沢線(所沢街道)、新宿青梅線(新青梅街道)の夜間であった。 今後も関係機関と協力して、道路沿道の環境改善に積極的に取り組んでいく。
5. 持続可能な社会の実現に向けた環境意識の醸成・協働の仕組みづくりを進めます	5-1	環境学習事業数	142事業 (2017年度)	140事業を維持 (2023年度)	環境保全課	72回 (延べ回数)	77回 (延べ回数)	新型コロナウイルス感染症の影響及び令和3年度は、エコプラザ西東京がワクチン接種会場となり、講座会場を近隣の住吉会館での実施とするなど、環境学習事業が縮小せざるを得ない状況であった。令和4年度もこの状態が続くことから、オンライン開催等の実施方法を検討する。
	5-2	環境学習講座への参加者数	1,501人 (2017年度)	1,500人を維持 (2023年度)	環境保全課	437人	350人 (エコプラザ環境講座参加者数)	
	5-3	地域での環境保全活動に参加したことのある市民の割合	9% (2018年度)	10% (2023年度)	環境保全課	—	—	